

岐 阜 県 交 響 楽 団

(公財)岐阜県教育文化財団助成・第21回岐阜県民文化祭協賛事業

第85回定期演奏会

日時:平成28年 6月19(日)

午後2時開演(午後1時20分開場)

会場:羽島市文化センター「スカイホール」

羽島市竹鼻町丸の内6-7 TEL 058-393-2231

Hiroyuki
Odano

Kiyoshi
Shomura

指揮:小田野 宏之

Photo: Zdenek Chrapek

ウェーバー/歌劇「オベロン」序曲

ロドリゴ/アランフェス協奏曲

ムソルグスキー(ラヴェル編曲)/組曲「展覧会の絵」

独奏: 荘村 清志(ギター)

Photo: 得施通弘



【チケット料金】 自由席(一部会員指定席) 一般:2,000円 高校生以下:1,000円(当日各300円増)

【チケット取扱】 羽島市文化センター、松栄堂楽器、マーサ21、長良川国際会議場の各プレイガイド、岐響URL・岐響事務局および岐響団員



TEL 0570-02-9999 (Pコード:294-319) URL <http://pia.jp/t>

お近くのチケットぴあスポット、サークルKサンクス、セブン-イレブン各店舗でも直接お問い合わせいただけます。

【お願い】未就学児のご入場はご遠慮ください。

主催:公益社団法人 岐阜県交響楽団

後援:公益財団法人岐阜県教育文化財団、岐阜県教育委員会、岐阜市教育委員会、羽島市教育委員会、岐阜県芸術文化会議、岐阜市芸術文化協会、岐阜県アマチュアオーケストラ連盟

指揮 小田野 宏之 (おだの ひろゆき)

HIROYUKI ODANO (Conductor)



Photo: Zdenek Chrapek

横浜生まれ。1980年東京芸術大学音楽学部指揮科卒業。1983年同大学大学院音楽研究科修了。大学在学中、指揮法を金子登、渡邊暁雄、ピアノを水谷達夫、フルートを川崎優の各氏に師事。1983年より1985年まで、国際ロータリー財団奨学生としてウィーン国立音楽大学へ留学。指揮法を O.スウィトナー、P.シュヴァルツ、ピアノを R.ハインツェ、オペラ伴奏法を H.ゲルツの各氏に師事し、研鑽を積む。

1982年第17回民音コンクール指揮の部第3位入賞、同時に「斎藤秀雄賞」受賞。1984年オランダで行われた第1回キリル・コンドラシン国際指揮者コンクールに於いて第2位入賞。アムステルダムのコンセルトヘボウ大ホールに於いてオランダ放送フィルハーモニー管弦楽団を指揮してヨーロッパにデビューを飾る。

留学中よりオランダ放送交響楽団、オランダ放送室内管弦楽団にたびたび客演し、演奏会のほか放送用の公開録画・録音を数多く指揮。また1986年2月には北オランダのフリスク管弦楽団定期演奏会に日本人として初めて登場し、成功を収めた。最近では南西ドイツフィルハーモニー管弦楽団への客演も回を重ね、2007年2月にはピアニスト急遽変更のアクシデントの中、イタリアとスイスの演奏会を大成功に導いた。2010年3月にはチェコのピルゼン放送交響楽団に招かれ定期演奏会を指揮している。

国内では全国各地の主要オーケストラを指揮するほか、1985年より1988年まで牧阿佐美バレエ団指揮者として全ての公演を指揮する。また1991年に横浜で「コジ・ファン・トゥッテ」を指揮して以来オペラ公演にも積極的に関わり、バレエ、オペラの分野でも高い評価を得ている。吹奏楽では東京佼成ウインドオーケストラとの共演も多く、定期演奏会の指揮をはじめ、特に邦人作品のCDは各方面より絶賛されている。

1989年大阪センチュリー交響楽団設立の際は、楽員オーディションの審査やオーケストラのトレーニングに尽力し、同交響楽団指揮者として1992年3月まで活動。1995年より2002年まで広島交響楽団正指揮者をつとめ、定期演奏会をはじめさまざまな演奏会を数多く指揮し、広島交響楽団の発展に大きく寄与した。2002年9月にはNHK交響楽団定期演奏会に合唱指揮者として参加、シャルル・デュトワ指揮によるシマノフスキーの「スターバト・マーテル」とオペラ「ロジェ王」の本邦初演成功の一翼を担った。

上記の他にこれまでに札幌交響楽団、群馬交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティフィルハーモニック管弦楽団、東京都交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、九州交響楽団などに客演。その誠実な指揮ぶりと豊かな音楽性は高く評価されている。

ギター 莊村 清志 (しょうむら きよし)

KIYOSHI SHOMURA (Guitar)

9歳よりギターを始める。1963年に巨匠イエベスに認められ、翌年スペインで師事。

67年と68年にはヨーロッパ各地でリサイタルを行ない、69年の日本デビューで、「テクニック、音楽性ともに第一人者」との高い評価を得た。71年には北米で28に及ぶ公演を行い、国際的評価を不動のものにした。74年にはNHK教育テレビ「ギターを弾こう」に講師として出演し、一躍全国にその名と実力が知られることになった。

日本人作曲家にも多数作品を委嘱、新作の初演にも意欲的である。とくに武満 徹には74年に「フォルオス」、93年に「エキノクス」(初演94年)を委嘱し、ギタリストにとって重要なレパートリーの一つとなっている。「ギターのための12の歌」は莊村清志のために編曲され77年に初演・録音、「森のなかで」を96年全曲初演を行った。

レコーディング活動も積極的に行ない数々のCDを発売している。

2007年NHK教育テレビ「趣味悠々」のギター講師として再登場し、改めて日本ギター界の第一人者として強く印象づけた。2008年ビルバオ交響楽団の定期演奏会に出演。同団とは《アラフエス協奏曲》を録音、09年にCDをリリース、日本ツアーのソリストとして同行した。

2013年12月にはCD「アルハンブラの想い出」をリリース、2014年デビュー45周年を記念して東京にて大友直人指揮東京交響楽団と協奏曲3曲を演奏した。2015年10月にはイムジチ合奏団と共演、レコーディングを行い、ジュリアーニ、ヴィヴァルディのギター協奏曲を含むアルバムが16年1月にリリースされた。また16年は武満徹の没後20年に際し、莊村が委嘱、初演を数多く手がけた同氏のギター曲を各地で演奏する予定。現在、東京音楽大学客員教授。(2016年1月現在)



Photo: 得能通弘

公益社団法人 岐阜県交響楽団

Gifu Symphony Orchestra



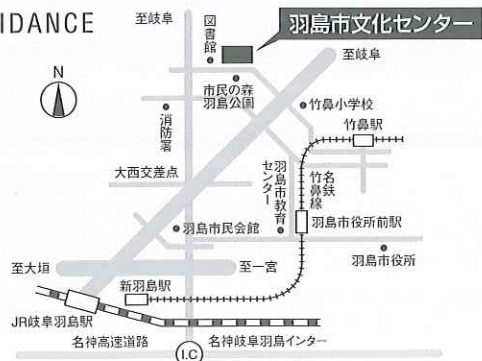
1953年、岐阜交響楽団として発足。長年にわたる活動が認められ2011年3月「公益社団法人 岐阜県交響楽団」となる。楽員は110余名で、様々な職業人で構成しているアマチュアオーケストラである。

活動は、年3回の自主公演を中心に各地の学校や地域での演奏活動、岐響ジュニアオーケストラの育成など、地域に根ざした音楽文化普及と向上発展に熱意と情熱をもって貢献している。

1998年専用の練習場が完成。2003年創立50周年にはサントリーホールにて「東京公演」を、2009年創立55周年にはウィーン楽友協会にて「ウィーン公演」を開催し大成功をおさめた。また2013年創立60周年ではマラー作曲交響曲第2番「復活」を演奏し、力強いメッセージを発信した。

1984年「地域文化功労表彰」(文部大臣)、1999年「ふるさと文化賞」(岐阜市)、2007年「岐阜新聞大賞」(岐阜新聞)を受賞。今後、ますますのレベルアップを図り、郷土の皆さまに、いっそう誇りをもっていただけるオーケストラを目指し、努力を続けている。

GUIDANCE



交通アクセス

- 名鉄竹鼻線
羽島市役所前駅から徒歩約15分
- 名鉄竹鼻線
竹鼻駅から徒歩約15分
- JR東海道新幹線
岐阜羽島駅からタクシーで約5分
- 名神高速
岐阜羽島I.C.から車で約8分